OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	創刊の辞
Author(s)	林, 敏彦
Citation	国際公共政策研究. 1997, 1(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5057
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

創刊の辞

大阪大学大学院国際公共政策研究科長
林　　敏彦

技術進歩と経済発展によって急速に世界の一体化が進みつつある今日、公共政策の課題は国境を越え、既存の学問領域を超えて複雑化してきている。１９９４年６月に法学、政治学および経済学の研究者を中心として発足した大阪大学大学院国際公共政策研究科（ＯＳＩＰＰ）は、学際的で先端的な研究教育を行うことによって、そうしたグローバルな公共政策上の課題に対処できる幅広い学識と専門知識を備えた人材を育成することを目的としている。

創設後３年を経て、博士前期課程入学志願者は定員の４倍に達し、カリキュラムの充実、学外との交流、数々の研究プロジェクトの推進などを通じて、新しい時代に新しい考えで取り組もうとするＯＳＩＰＰの研究教育姿勢はようやく各方面で評価されるようになってきた。今年度は、ＯＳＩＰＰとして初の５名の博士（国際公共政策）号取得者を世に送り出すことができたが、来年度以降この数はさらに増加するものと期待されている。

しかしながら、学問的には、国際公共政策学という分野が確立されているわけではない。むしろ、国際公共政策研究の問題設定、分析手法および成果の評価基準などを明らかにしていくことこそ、ＯＳＩＰＰに集う研究者・大学院生が不断の研究的実践と蓄積を通じて応えていかなければならない課題である。その意味で、他の出版物に類を見ない表題を冠した『国際公共政策研究』の創刊は極めて意義深い。

１９６８年、Garrett HardinはScience誌に “The Tragedy of the Commons” という論文を発表した。そこでハーディンは、専門的科学ジャーナルに登場する議論では、ほとんどの場合あらゆる問題に技術的解決策が存在するという暗黙の前提が貫かれていることを批判し、科学者に対して、技術で解決することのできない問題の重要性を説いた。その好例としてハーディンは人口問題を挙げ、農業の生産性向上も市場の見えざる手も問題を解決することはできない、と論じた。

ハーディンの目に大きく映っていたのは、共有地（commons）の問題である。人口問題も環境問題も、社会が共同利用できるはずの共有地を、それぞれの成員が思い思いに利用しようとすることによって発生している。これらの問題を解決するには工学技術だけでは限界がある。そう分析したハーディンは、結局解決策を社会の成員が互いの行動を抑制し合う仕組みを作ることに求めた。その仕組みは自由への抑圧ではなく、必要性を認識したより高次で貴重な自由を獲得する手段である、と。

ハーディンは同じ頃始まった公共経済学の考え方を承知していない。しかしハーディンは、モラルや欲望や価値の領域にも踏み込んで問題を考えている点で、「公共財の最適供給」という経済分析の枠を超えている。国際平和や安全保障、人権・難民問題、経済発展、地球環境、制度や規制、産業構造、技術進歩、情報、政策協調など、今ＯＳＩＰＰの前に広がっている問題も、ハーディンの見た共有地の問題であると言えるであろう。

いまここに創刊された『国際公共政策研究』がこうしたコモンズの問題を議論するフォーラムを提供し、“Economics is what economists do” という言い方に習って、国際公共政策研究とは『国際公共政策研究』に展開されるような研究である、と言われるまでに成長することを願わずにはいられない。